

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

南海トラフ地震臨時情報について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2024 年 8 月

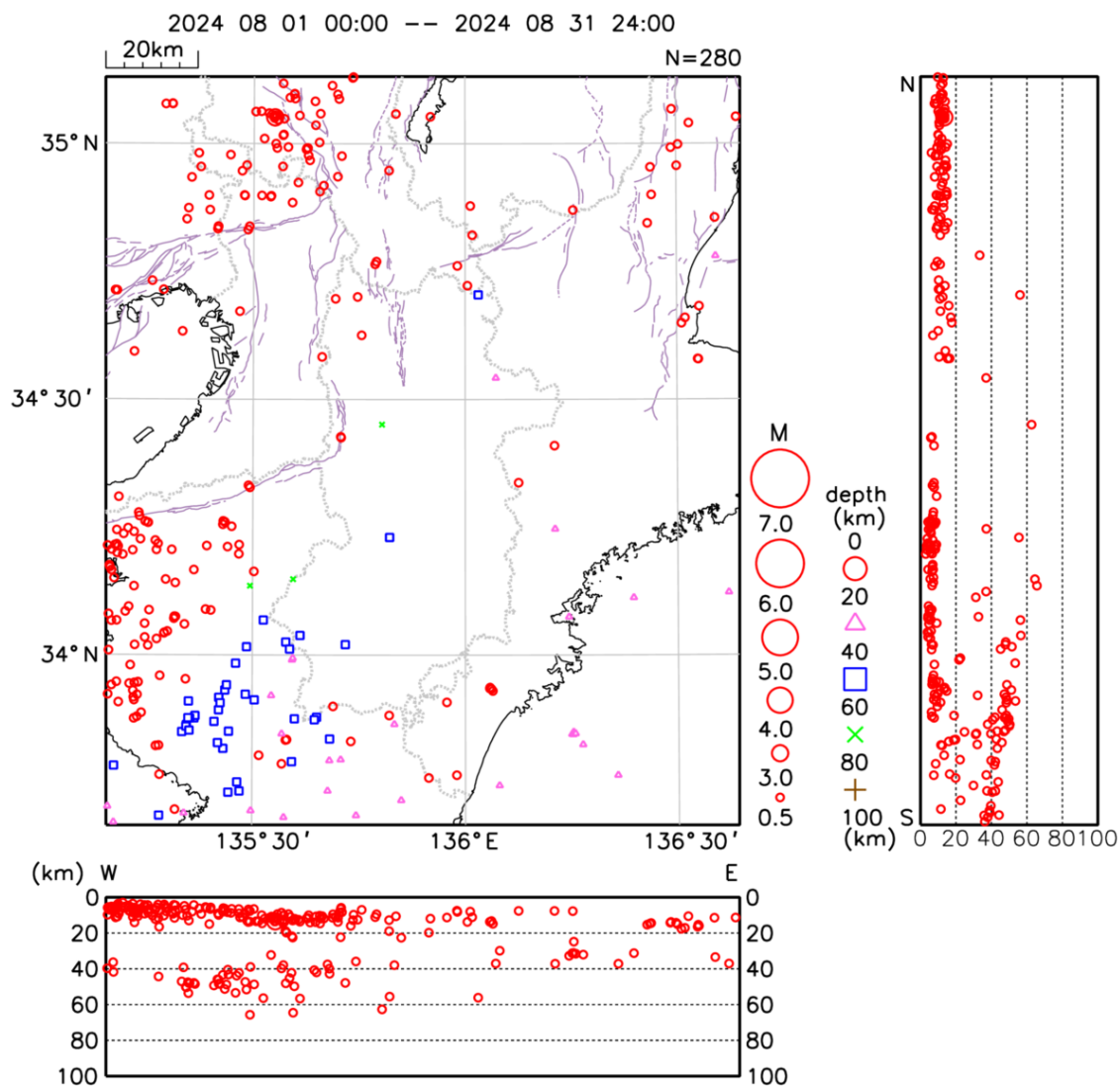
本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>



【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

8日16時42分 日向灘の地震（最大震度6弱、深さ31km、M7.1：震央分布図範囲外）により、奈良県内では大和郡山市、広陵町、葛城市で震度1を観測しました。

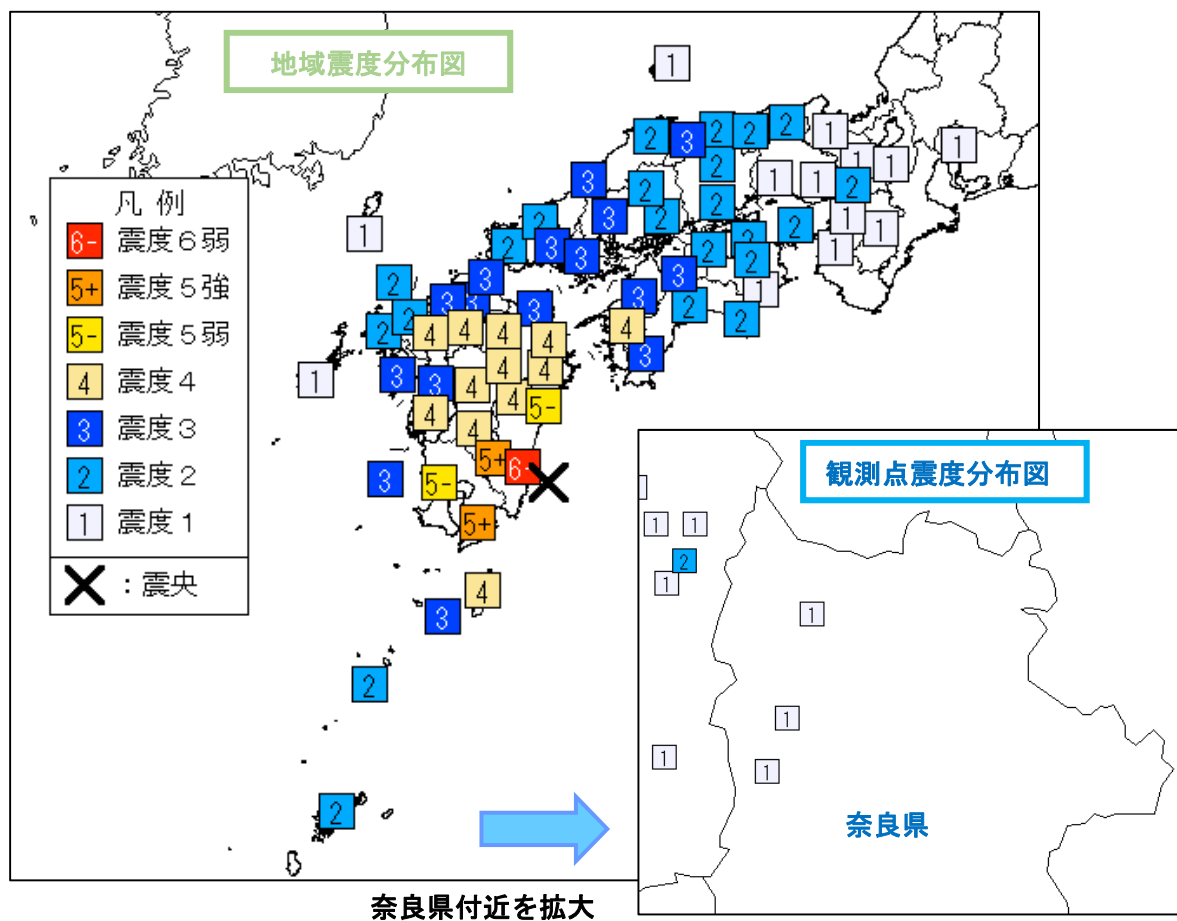
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2024年08月08日16時42分	日向灘	31° 44.2' N	131° 43.3' E	31km	M7.1
震度 1：大和郡山市北郡山町＊、広陵町南郷＊、葛城市柿本＊					

＊印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

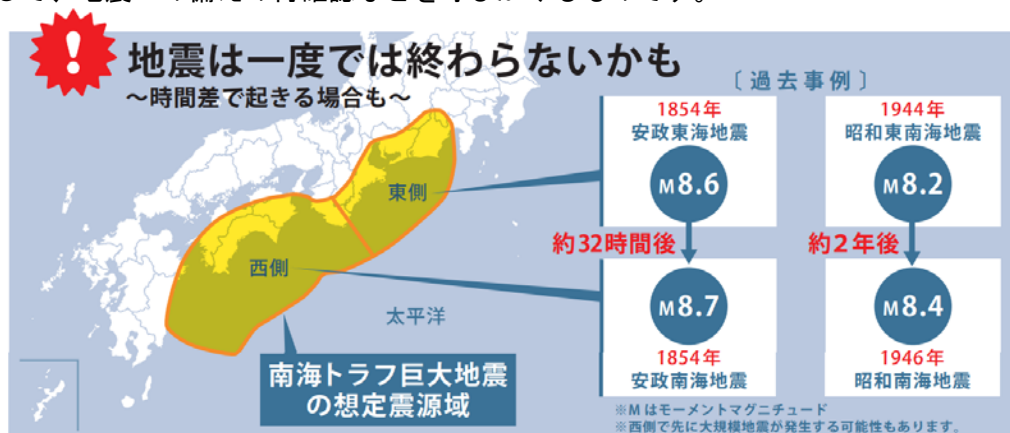
2024年08月08日16時42分	日向灘	31° 44.2' N	131° 43.3' E	31km	M7.1
-------------------	-----	-------------	--------------	------	------



【地震一口メモ】 ～南海トラフ地震臨時情報について～

8月8日16時42分の日向灘の地震（最大震度6弱）では、地震発生から18分後の17時00分に南海トラフ地震臨時情報（調査中）を発表し、その約2時間後の19時15分に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）を発表しました。南海トラフ地震臨時情報（以下、「臨時情報」という。）が発表されるのは令和元年の運用開始以降、初めてのことで、この情報を初めて知ったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

この臨時情報は、南海トラフ沿いの隣接地域で大規模地震が連動して発生すること等を想定して、地震への備えの再確認などを呼びかけるものです。



気象庁リーフレット「南海トラフ地震—その時の備え—」から抜粋

今回、臨時情報を発表する原因となった日向灘の地震の規模（モーメントマグニチュード※）が7.0以上8.0未満だったため「巨大地震注意」のキーワードを付加して発表しましたが、地震の規模が8.0以上で、かつプレート境界で発生したと評価した場合は、「巨大地震警戒」のキーワードを付加して発表します。どちらも南海トラフ地震の想定震源域で、新たな大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっている状態です。

この臨時情報を見聞きした場合は、大きな被害が想定されている南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されている地域（奈良県は全市町村が指定）にお住まいの方は、地震への備えを再確認し、政府や自治体からの呼びかけに応じた防災対応をとってください（キーワードに応じた防災対応と警戒・注意する期間は次頁を参照）。

右の二次元コードから臨時情報が発表された際の防災対応や日頃からの地震の備えなどを分かりやすく説明している「南海トラフ地震 その日が来たら…」へアクセスすることができます。

いつ規模の大きな地震が発生しても自分の命はもちろん、大切な人の命を守るために、日頃から地震への備えをしておきましょう。

※モーメントマグニチュード
地震断層の長さ等から求めるマグニチュードで、地震情報のマグニチュードと異なる場合があります。



南海トラフ地震臨時情報が発表されたら…



- 政府や地方公共団体からの呼びかけに応じた防災対応をとりましょう
- 1週間の事前避難が必要となる地域もあります

気象庁が南海トラフの想定震源域等で異常な現象を観測※1

➡個々の状況に応じて避難等の防災対応を準備・開始

地震発生から
5分～30分後

気象庁が「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」を発表

地震発生から 最短2時間後	南海トラフ地震 臨時情報 (巨大地震警戒)	南海トラフ地震 臨時情報 (巨大地震注意)	南海トラフ地震 臨時情報 (調査終了)
(最短) 2時間程度	巨大地震警戒対応 ●日頃からの地震への備えを再確認する等 ●地震発生後の避難では間に合わない可能性のある要配慮者は避難、それ以外の者は、避難の準備を整え、個々の状況等に応じて自主的に避難 ●地震発生後の避難で明らかに避難が完了できない地域の住民は避難	巨大地震注意対応 ●日頃からの地震への備えを再確認する等(必要に応じて避難を自主的に実施)※2 つねに家族の所在場所を把握 非常用袋やヘルメットを玄関に 寝る時は枕元にはきなれた靴を置いておく	●大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う
1週間			
2週間	巨大地震注意対応 ●日頃からの地震への備えを再確認する等(必要に応じて避難を自主的に実施)	●大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う	
大規模地震発生まで	●大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う		

「南海トラフ地震 その日が来たら…」から抜粋(一部修正)

※1 南海トラフの想定震源域やその周辺でマグニチュード 6.8 以上の地震や南海トラフのプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべりが発生した可能性がある場合。

※2 通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過した時。